包括的な学校改善の視点：学校マネジメント

学校改善につながる検証サイクルを推進する学校モデル

中核校	標茶町立標茶小学校	指定校	標茶町立磯分内小学校、標茶町立沼幌小学校 標茶町立標茶中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　ゴールイメージを明確にした経営方針の提示

・全ての教育活動計画について、重点として位置付けた４つの資質・能力を選択し、具体的な子どもの姿で目標と評価項目を設定する。

・各活動実施後、即時的に評価、改善に向けたプランニングを行えるようシステム化する。

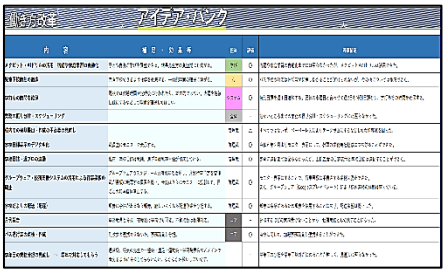
身に付けさせたい事項	教師の指導（具体的な共通指導）
○チャイムが鳴る前に席に着く。	○授業前後の挨拶を姿勢正して行うよう伝える。 ○時計を見ながら行動させたり、始まる１分前等に声をかけたりする。 ◆次の授業の準備をしてから休み時間にすることも同時に意識させる ・担任もチャイムと同時に授業を始め，終わる。 ・特別教室，体育館での授業は終わり時刻に配慮する。 ・夏休み明けのリスタートに、落ち着いた雰囲気を作っていく。

【指導の在り方を共有する評価システム】

○　教職員が実感を伴う業務改善の推進

・教職員から改善のアイデアを募り、コアチームの協議を経てチームメンバーと各分掌部長が調整を図りながら業務改善を進める。

・募ったアイデアについて、「実施」または「協議」と進捗状況を見える化することで、教職員に自分のアイデアが学校経営に反映されている実感をもたせる。



【アイデアの評価を示す業務改善一覧】

○　学校運営協議会及び学校評価と連動したマネジメントサイクルの確立

・学校評価の項目を各分掌で決定させることにより、各分掌の取組を方針の重点を踏まえた教育活動につなげ、評価、改善の取組を進める。

・学校運営協議会に教職員が参加し、協議委員との協議をとおして、より実効性のある取組を進めるとともに、学校と地域の連携の推進及び協働意識の高揚を図る。

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

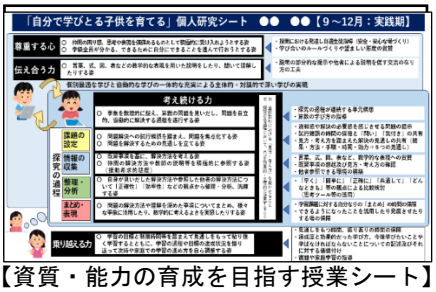
・経営方針の作成にあたって、学校全体で共有を図るため、全教職員からよりよい内容やレイアウト等に係る意見を求めるなど、中核となる教職員が主体的に学校改善に向けた取組を推進できるよう留意した。

・学校運営協議会の議題として、学校評価による業務改善の推進を設定し、保護者、地域住民等と取組の共通理解を図り、学校が保護者、地域に説明責任を果たしながら学校運営を行うよう努めた。

〔専科教員及び事務職員の取組〕

・専科教員が先導的に推進するＩＣＴの活用、事務職員を中核とした働き方改革について、ゴールイメージと達成に向けた取組を「グランドデザイン」及び「ロードマップ」等に示し、全教職員で、全ての教育活動が教育目標の達成に向けた取組であることを意識できるよう留意した。

・専科教員が中心となる校内研修（授業改善）の取組において、子どもの変容を見取る観点を４つの資質・能力に整理したことにより、観点に基づいた授業に対する職員の対話を増やし、子どもの姿で授業を省察する取組を促進した。



【資質・能力の育成を目指す授業シート】

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・地域協議会を開催し、中核校・指定校における取組の成果を共有する。

・小中連携による授業交流及び５部会（学習、生活、特別支援、ＩＣＴ、総合的な学習の時間）を開催し、指定地域で取組の成果を共有する。

・指定地域の取組の成果を学校運営協議会、標茶町教育研究所各部会、等で普及する。